

# 大和合金 19年の航空機用材料販売

## 3割拡大へ

## 仏大手顧客 新規開拓

大手航空機部材メーカー向けの出荷が拡大したほか、アジア・米州向けの販売も堅調で、当初目標を大きく上回った。

銅合金の押出品・鋳鍛造品メーカーの大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2019年、航空機用材料の販売数量を前年比で3割拡大

させる。昨年新規開拓したフランスの大手航空機関連メーカーへの納入が本格的に始まるほか、日本・欧米・中国などに立地する既存顧客での受注増も見込

んでいる。

航空機関連市場は世界的な機体数の増加で成長が見込まれている。同社では注力分野に位置づけており、アルミ青銅や高力黄銅製

の材料を足回りの軸受け向けに積極的に拡販している。

18年の航空機用材料の販売数量は同約2.3倍に拡大。17年から供給を始めたドイツの

19年は間接取引があったフランス大手航空機関連メーカーの材料認定を種類面で拡大し、直接取引を開拓したことなどから数量増を見込んでいる。品質管理などの工程を増強しながら、受注拡大に対応する方針。